

令和7年度 事業報告 (案)

全国科学博物館協議会

1 管 理 運 営

事 項	内 容
第1回 理事会	期 日 令和7年7月3日 (木) 会 場 国立科学博物館 大会議室及びオンライン 出 席 館 出席:20館 (監事館を含む) 現地:17館 オンライン:2館 議 事 次の議事について審議し、承認された。 1) 令和6年度事業報告について (案) 2) 令和6年度収支決算について (案) 3) 令和7年度事業予定について (案) 4) 全国科学博物館協議会理事会運営規程の改正について (案) 5) 令和8年度以降の理事館数について
第1回 総 会	期 日 令和7年7月3日 (木) 会 場 国立科学博物館 講堂及びオンライン 出 席 館 出席者:145名 (正会員78館、維持会員10団体、購読会員1団体) 委任状提出:48館・団体 (正会員45館園及び維持会員3団体) 議 事 次の議事について審議し、承認された。 1) 令和6年度事業報告について (案) 2) 令和6年度収支決算について (案) 3) 令和7年度事業予定について (案) 4) 全国科学博物館協議会理事会運営規程の改正について (案) 5) 令和8年度以降の理事館数について その他 特になし 話題提供 国際プラネタリウム協会 2026 国際大会 in 福岡の開催について IPS2026国内組織委員長 (福岡市科学館館長) 矢原 徹一 海外先進施設調査報告 東京農工大学科学博物館 上田 裕尋 海外先進施設調査報告 多摩六都科学館 佐々木 有美 記念講演 「21世紀のワールドビルディング」 森美術館長 (兼) 国立アトリサーチセンター長 片岡 真実
施設見学	期 日 令和7年7月4日 (金) 見 学 先 千葉市科学館
第2回 理事会	期 日 令和8年2月17日 (火) 会 場 国立科学博物館筑波研究施設総合研究棟1階多目的室及びオンライン 出 席 館 出席:18館 (監事館を含む) 委任状提出:2館 議 事 次の議事について審議し、承認された。 1) 令和8・9年度の役員館園 (案) について 2) 令和8年度事業計画及び収支予算 (案) について
第2回 総 会	期 日 令和8年2月17日 (火) 会 場 国立科学博物館筑波研究施設総合研究棟8階大会議室及びオンライン 出 席 館 出席者:157名 (正会員78館、維持会員8団体、購読会員2団体/会員外参加者1名) 委任状提出:65館・団体 (正会員58館及び維持会員7団体) 議 事 次の議事について審議し、承認された。 1) 令和8・9年度の役員館園 (案) について 2) 令和8年度事業計画及び収支予算 (案) について その他 特になし 行政説明 博物館振興施策等概要説明 文化庁 企画調整課長 (併) 博物館振興室長 桐生 崇

オプションツアー	研修報告 全科協海外科学系博物館視察研修報告 公益財団法人目黒寄生虫館 研究員 高野 剛史
	報 告 20周年を迎えたサイエンスミュージアムネット (S-Net) 国立科学博物館動物研究部研究主幹 中江 雅典
	国立科学博物館筑波研究施設 概要説明 国立科学博物館研究調整役 細矢 剛 ① 自然史標本棟及び標本・資料棟特別見学ツアー ② 筑波実験植物園バックヤードツアー

2 事業 (1) 研修事業

事 項	内 容
学芸員専門研修 (アドバンスト・コース)	博物館の現状を幅広い観点から理解するとともに、資料の収集・保管、調査研究、展示、学習支援活動等について専門的、実践的な研修を実施した。 期 間 令和7年11月11日(火)～14日(金) (4日間) 共 催 者 国立科学博物館 内 容 理工系機械資料の特徴と取扱い方法等 参 加 者 12名
オンライン学芸員専門研修	博物館等に勤務する経験年数の少ない学芸員や職員等の方を対象に、一層の資質の向上を目的として研修を開催し、オンライン (Zoom) のライブ形式にて講義を行った。 期 間 令和8年2月2日(月)、3日(火) (2日間) 共 催 者 国立科学博物館 内 容 国立科学博物館植物研究部の研究活動や標本・資料の収蔵・活用等 参 加 者 38名
海外科学系博物館視察研修	韓国の科学系博物館における展示技術、学習支援活動等について理解を深め、博物館の充実、発展に資することを目的として、(公財)カメイ社会教育振興財団の助成を受けて、海外視察研修を実施した。 期 間 令和8年1月13日(火)～19日(月) (7日間) 共 催 者 (一財)全国科学博物館振興財団 訪 問 館 SEALIFE COEX、国立海洋遺産研究所、国立光州科学館、国立中央博物館、国立果川科学館 参 加 者 16名 (5館、3社)
海外先進施設調査	これからの博物館事業を支えていく若手職員を主として、海外の先進博物館を調査・研究する機会を提供することを目的として、(公財)カメイ社会教育振興財団の助成を受けて実施した。 内 容 3名の調査者が、各自でテーマを設定し、フランス、イギリス、アラブ首長国連邦の博物館、研究施設等を訪問し調査した。派遣者とテーマ、調査先は以下のとおり。 期 間 令和7年7月26日(土)～8月2日(土) (8日間) 調 査 者 国立科学博物館 長澤 牧子 テ ー マ 「イギリスおよびフランスの博物館等における、常設展示のインクルーシブ・デザインの取り組みについて」 訪 問 館 国立自然史博物館 (仏)、シテ科学産業博物館 (仏)、ロンドン自然史博物館 (英)、大英博物館 (英) 期 間 令和7年11月9日(日)～16日(日) (8日間) 調 査 者 国立科学博物館 大橋 紘樹 テ ー マ 「最新技術を活用したイマーシブ体験を可能とする展示手法の海外事例調査」 訪 問 館 未来科学館 (ドバイ)、アルテ博物館 (ドバイ)、ドバイエキスポシティ (ドバイ)、チームラボフェノミナ (アブダビ)、グリーンプラネット (アブダビ)、アブダビ国立水族館 (アブダビ)、ルーヴル・アブダビ美術館 (アブダビ) 期 間 令和7年11月10日(月)～16日(日) (7日間) 調 査 者 東京農工大学科学博物館 齊藤 有里加 テ ー マ 「大学博物館における理工系資料の継承と先端科学との接続に関する国際的動向の把握—ICOMドバイ大会(UMACセッション)参加および未来博物館視察を通じて」 訪 問 館 ドバイ世界貿易センター (ドバイ; ICOM主会場)、エキスポシティテラ (ドバイ; CIMUSET会場)、未来科学館 (ドバイ)

(2) 連携促進事業

事 項	内 容
研究発表大会	科学系博物館に共通する課題や各館の活動成果について発表及び協議し、学芸員等博物館専門職員の活動の一層の充実に資することを目的とし、第33回研究発表大会を開催した。 期 日 令和8年2月18日（水） 会 場 国立科学博物館筑波研究施設総合研究棟8階大会議室及びオンライン 参 加 者 191名うち現地101名（会員外参加者1名） テ ー マ 倫理的かつ専門性をもったコミュニケーションへ調査研究等の博物館の基盤的活動を人々に伝える手法について ○口頭研究発表 15件 ① 現在も継続する災害の博物館展示に関する一考察 東日本大震災・原子力災害伝承館 瀬戸 真之 ② 科学データ可視化展示「ジオ・スコープ」のリニューアル～耳で楽しむ・オンラインで学ぶ・学校で使う～ 日本科学未来館 平井 元康・小林 浩太 ③ 大学附属博物館における先端研究の発信ー「シルクが切り開く未来展」にみる科学と社会の対話ー 東京農工大学科学博物館 齊藤 有里加・上田 裕尋・伊藤 克彦・中澤 靖元 ④ 理科の楽しさを伝える「センター学習」と「新展示品開発」 京都市青少年科学センター 中井 祥平 ⑤ 専門分野を博物館展示に活かすー爬虫類・両生類の事例ー 国立科学博物館 吉川 夏彦 ⑥ 日本語教室との協働ー地域とともに歩むためにー 浜松科学館 横田 誓子・島田 真帆 ⑦ 視覚障害者向け常設展示ツアーの実践とまとめ～触って体感する宇宙のくらし～ 日本科学未来館 三浦 菜摘・佐野 広大・澤田 拓実・荒木 千賀 ⑧ 初代南極観測船「宗谷にタッチ！」～だれもが楽しめる、五感を使ったこれからの博物館活動～ 公益財団法人日本海事科学振興財団 船の科学館 高橋 昌代 ⑨ 障害者の生涯学習に関する地域連携とDEI行動規範の策定 兵庫県立人と自然の博物館 橋本 佳延・廣瀬 孝太郎・藤井 俊夫・福本 優・衛藤 彬史・石田 弘明 ⑩ 植物の多様性に関する研究とその成果の展示への活用 国立科学博物館 村井 良徳 ⑪ 三松三朗氏の実践した火山と共生するためのサイエンスコミュニケーション 磐梯山噴火記念館 佐藤 公・箱根ジオパーク推進協議会 荒木 藍 ⑫ 科学館における「非認知能力」涵養の実践ー教育プログラムを特別展へ展開する試みー 福岡市科学館 高山 裕明・上田 恭子 ⑬ 佐賀県立宇宙科学館と県内5高校の生徒による超小型人工衛星「SAGANSAT 0号機」の共同開発 佐賀県立宇宙科学館 伊藤 明徳・田中 政文・小林 翔 ⑭ 博物館所蔵ボーリング標本を用いた学校向け貸し出し教材開発による地学教育支援 大阪市立自然史博物館 石井 陽子 ⑮ 科学博物館におけるマンガ展の開催に関する考察 国立科学博物館 栗原 祐司 ○ポスター発表 3件 ① 研究者による展示解説「ガイドツアー」を通じた来館者エンゲージメント向上の試みー地質標本館での実践ー 産業技術総合研究所 地質標本館 瀬口 寛樹・福田 和幸 ② 鉱物を絵の具にー関心を繋ぐ体験イベントー 産業技術総合研究所 地質標本館 川邊 禎久・兼子 尚知・中村 由美 ③ 学芸員の活動を市民に伝えるー大阪市立科学館の事例ー 大阪市立科学館 嘉数 次人

巡回展の実施協力	国立科学博物館製作による巡回展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」、「ダーウィンを驚かせた鳥たち」、「キモかわすごい！海の骨なしどうぶつの世界」、「博物館が支える日本の生物多様性の保全」、産業技術総合研究所地質標本館製作のパネル展「日本初！日本列島大分析 元素で見る『地球化学図』」、「日本列島ストレスマップー地震観測とAIで読み解く全国の地殻応力場ー」、「美しい砂の世界ー日本の砂、世界の砂、地層の砂ー」、「地中熱 あなたの足元に再生可能エネルギー」、「プレートテクトニクスがつくる などの温泉『深部流体』」、「時」展覧会2020実行委員会製作のパネル展「『時』展覧会2020」、日本科学技術振興財団の巡回展示「ラ・ビレット展」、「マグネット展」、「スポーツを科学する」、「感覚・体感フィールド」、「科学捜査展」、「究める！マグネット展」、「科学捜査展 #SEASON2」、「マスレチック・ランド」、「光の世界」、「自然現象のメカニズム展」、「消防火災展」、福島県環境創造センターのコミュタン福島学習パネル及び福岡市科学館製作の「新種はっけん！展」の案内周知を行うなどその開催実施に協力した。
科学系博物館ネットワークシステム事業への協力	国立科学博物館が行っている科学系博物館情報ネットワークシステム事業（S-net）について、事業推進に協力した。
事業に対する後援	加盟館園や関係機関等が実施する事業で、全科協の設置目的に適合し、適当と認められた事業に対し後援を行った。 8件 1) 博物館の達人 (独立行政法人国立科学博物館) 2) 夏休みあいちサイエンスフェスティバル2025 (国立大学法人名古屋大学) 3) 「青少年のための科学の祭典 2025」各大会 (「青少年のための科学の祭典」各大会実行委員会、公益財団法人日本科学技術振興財団) 4) 第42回植物画コンクール (独立行政法人国立科学博物館) 5) デジタルアーカイブフェス2025ーデジタルアーカイブの新展開ー (内閣府知的財産戦略推進事務局、国立国会図書館) 6) あいちサイエンスフェスティバル2025 (国立大学法人名古屋大学) 7) 静岡科学館 企画展 古生代探検隊〜三葉虫とめぐる進化の足あと〜 (静岡科学館・く・る) 8) 令和7年度展示学講座 (日本展示学会)

(3) 広報普及事業

事 項	内 容
機関誌の発行	全科協ニュース編集委員会を開催し、特集テーマ等加盟館園にとって有益な情報を掲載するよう内容の充実を図った。 「全科協ニュース」を年5回編集発行した（A4判16頁（第55巻第4・5号は20頁）内カラー4頁、850部） 第55巻第3号（R7年 5月） 特集：令和6年度 海外科学系博物館視察研修報告 第55巻第4・5号（R7年 9月） 特集：展覧会のその後 第55巻第6号（R7年11月） 特集：読書のすすめ2025 第56巻第1号（R8年 1月） 特集：博物館活動における3Dデータの取り扱い 第56巻第2号（R8年 3月） 特集：生徒や学生の活躍できる博物館
入会案内及び広報活動	全科協ホームページの運営方法と内容を随時見直し、facebookを活用するなどして情報及び内容のさらなる充実を図った。 ・ 全科協ニュース全号の掲載 ・ 理事会・総会の開催通知や各事業の募集案内の掲載 ・ 研究発表大会口頭発表要旨の掲載 他の博物館等協議会や関連企業等と情報交換し、リーフレットを配布するなど全科協への加盟の広報に努めた。